

別紙2 新たに「選定」した建物や庭園

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
1	第 10-001 号	北	につぼんせいこうかいきょうとふつかつきょうかい 日本聖公会京都復活教会	昭和 11 年（1936）に建てられたヴォーリズ設計による教会。礼拝堂は、装飾的な木製トラスが特徴。通りから見る鐘楼はランドマークにもなっている。
2	第 10-002 号			（非公表）
3	第 10-003 号	北	かわもとけ はな いおり 河本家（華の庵）	大正初期に建築された木造住宅。1 階南向きの和室は箏曲教授書として多くの生徒を育成するために使われている。
4	第 10-004 号	北	しんにょじ 真如寺	大本山相国寺の山外塔頭の一つ。創建は鎌倉時代に遡り、五山十刹のにも数えられた名利。法堂は明暦 2 年（1656）の建築。仏像や襖絵に加え、春のカキツバタ、秋の紅葉も見どころ。
5	第 10-005 号	上京	いしかわけ 石川家	腕木門を構えている町家。専用住宅として建築された昭和初期の様式を伝える貴重な建築物である。
6	第 10-006 号	上京	さいじょういなり 最上稲荷	大正 15 年（1926）に建造された、岡山県の最上稲荷さんの分院。町内の年中行事の中心であり、地元では「さいじょうさん」と呼ばれ、親しまれている。
7	第 10-007 号	上京	ささきのういししょう 佐々木能衣装	能楽の装束を製作する工房。建物は昭和 9 年（1934）から 11 年（1936）に建てられた織屋建ての町家である。能楽界にとって重要な存在である。
8	第 10-008 号	上京	さわいしょうゆほんてん 澤井醤油本店	明治 12 年（1879）創業の老舗醤油店。専門店向けから一般家庭にわたるまで愛用される醤油を製造し続けている。格子や虫籠窓が残る町家の建物。
9	第 10-009 号	左京	あん かふえ an cafe	北白川の町家。内部は土間やおくどさんも残され、畳のある昔ながらの住まいの体験の場として今後も残されていって欲しい。
10	第 10-010 号	左京	かふえ あびえ きゅう cafe APIED（旧ますや）	明治後期の頃、旅館「ますや」として建てられた。昭和の末に旅館は廃業したが、数年前に改修し、現在は春と秋限定でカフェ兼ギャラリーとして活用されている。
11	第 10-011 号	左京	きょうとおおほら むげんあん 京都大原 夢玄庵	築 160 年以上になると伝わる土蔵。明治維新の際、新撰組に追われた勤皇の土、藤村紫朗を傷が癒えるまで匿ったという逸話が残る。

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
12	第 10-012 号	左京	きょうとみんげいしりょうかん 京都民芸資料館	明治期に滋賀県日野町に建てられた土蔵を、昭和 56 年（1981）に移築したもの。移築時の増築部分は陶芸家・上田恒次によるデザイン。京都の民芸の拠点となっている。
13	第 10-013 号	左京	くすべけ 楠部家	陶芸家・楠部彌弼の居宅兼陶房。以前の栗田口の居宅の部材を一部に用い、昭和 13 年（1938）に建てられた。ろくろ場も残り、往時の製作の様子を伝える。
14	第 10-014 号	左京	こうじつきよ 好日居	遊園地・京都パラダイスの跡地に昭和初期に建てられた住宅建築。玄関脇にドイツ壁に縦長窓を嵌めた洋風応接室がつくられている。
15	第 10-015 号	左京	やまうちけ 山内家	明治時代に旅籠として建築された町家。昭和初期から戦後には、日本画家も集い、昭和 50 年頃には、京都大学の留学生が多く暮らした。
16	第 10-016 号	左京	やまぐちしょてん 山口書店	山口書店の創業者・山口繁太郎の居宅で、現在は社屋となっている。新棟は山口が同郷で交流のあった版画家・棟方志功の滞在用に、戦前の建物を昭和 30 年代に改修したもの。
17	第 10-017 号	左京	ヤマチカ	大正期に斜面地に開発された住宅地内の 2 階建て、入母屋造りの住宅。道路からは平屋のように見える。
18	第 10-018 号	左京	わたなべけ 渡邊家	江戸時代に遡るとされる主屋、北の蔵、乾蔵が残る。明和 4 年（1767）に起きた「源太騒動」は主屋の玄関前が舞台となったと伝わる。
19	第 10-019 号	左京	わちゅうあん 和中庵	昭和 3 年（1928）に近江五箇荘出身の藤井彦四郎の本邸として建設された。洋館・客殿・茶室が残る。高低差のある広大な庭園は、自然の河川を取り入れたもの。
20	第 10-020 号	(非公表)		
21	第 10-021 号	(非公表)		
22	第 10-022 号	(非公表)		
23	第 10-023 号	(非公表)		
24	第 10-024 号	中京	きょう やど みふく 京のお宿 三福	大正時代終わりに建てられた元お茶屋さんの建物を丁寧に改修され、お宿として営業されている。お部屋から見える鴨川の景色は残すべき価値のある空間。

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
25	第 10-025 号	中京	こばやしゆうししやじょう 小林祐史写場	昭和初年に居宅兼写真館として建てられた木造 3 階建ての洋館。3 階スタジオの北側は採光のために大きなガラス窓となっている。昭和初期の写真館の建物として貴重な存在である。
26	第 10-026 号	中京	たけうちけ きゅうたんきだべいこくてん 竹内家（旧丹定米穀店）	文化 5 年（1808）より近年まで米穀商を営んでいた。昭和 2 年（1927）に建てられた表屋造りの町家で、表蔵が建つ。とおり庭・はしり・火袋・天窓・おくどさん・井戸・虫籠窓・米屋格子などが風情を伝える。
27	第 10-027 号	中京	みつ きゅううおつね 満き（旧魚常）	100 年近く料亭として使用されていた数寄屋造りの建物。母屋と離れ、2 つの異なった趣の庭を有する。建物の至る所に使われている天然木材と、左官職人が丁寧に仕上げた聚楽壁が馴染んでいる。
28	第 10-028 号	中京	もとぎおんなぎじんじゃ 元祇園椰神社	「元祇園さん」とも呼ばれ地域に親しまれている貞観 11 年（869）創建の神社。椰神社・隼神社・社務所・鳳輦庫（ほうれんこ）とも戦前の建物で、地域の財産、京都の財産として後世に残していきたい。
29	第 10-029 号	東山	いちりきてい 一力亭	元禄 2 年（1689）創業のお茶屋「万屋（よろずや）」に始まる。後に歌舞伎の演目に登場する茶屋の名前にちなみ「一力亭」とした。現在の建物は祇園の大火後、明治 3 年（1870）に復興した。赤壁が許された 3 軒のお茶屋のうち、唯一現存している。
30	第 10-030 号	東山	ぎおんきんびょう 祇園金瓢	文化 7 年（1810）創業の造り酒屋の母屋を宿泊施設として使用。格子戸、虫籠窓、坪庭などの町家の風情とともに、杉玉、広い玄関、囲炉裏のある大きな土間、壁際に並ぶ造り酒屋の道具など、商家の雰囲気も味わえる。
31	第 10-031 号	東山	はつ た け 八田家	本 2 階建て、入母屋造りの町家。京焼を生業としていた家で、住居兼仕事場であった。町内には明治・大正・昭和を通して活躍された陶芸家の自宅・工房が軒を連ねており、この町家も永く残したい建物。
32	第 10-032 号	下京	はつえだいましょうじん 初榮大明神	江戸時代末期に創建された神社。夜になると動物に化身し、地域や子供を見守っていると伝わる。地域に信仰されている神社を後世に残したい。
33	第 10-033 号	南	ひろせべいこくてん 廣瀬米穀店	昭和元年（1925）創業の米屋。米屋の一角では、カフェも併設し、暖簾や大きな開口部など、竹田街道にぎわいをもたらす存在として価値が高い。

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
34	第 10-034 号	右京	いのうえ つえんけ 井上・曾家	230 年以上の歴史をもつと伝わる古民家。囲炉裏やおくどさんも残り，来客のたびに利用している。美しい里山の景色の中で，この茅葺屋根を後世に残したい。
35	第 10-035 号	右京	はな かんきゅうろう 花のいえ 關鳩楼	角倉了以の舟番所址に建つ旅館。離れ座敷の「關鳩楼」は江戸時代初期のものと伝わり，枯山水の庭園は小堀遠州の作と伝わる。
36	第 10-036 号	伏見	こにしけ 小西家	現当主で 20 代目となる農家。清水谷家（しみずだにけ）に仕えた頃，御所への往復に使われた駕籠が残る。虫籠窓，煙出し，床の間，庭の風情など次の時代に残したい。
37	第 10-037 号	左京	も あん 茂庵	吉田山山頂付近に営まれた実業家・谷川茂次郎の茶苑に由来する。大正期に建てられた木造 2 階建ての食堂や 2 棟の茶室が残る。
38	第 10-038 号	東山	なみかわやすゆきしつぼうきねんかん 並河靖之七宝記念館	明治・大正期に七宝家として活躍した帝室技芸員 並河靖之の邸宅兼工房。主屋は明治 27 年（1894）に建築された。近代京都の産業を支えた七宝を感じることができる建物。
39	第 10-039 号	伏見	まつもとしめぞう 松本酒造	寛政 3 年（1791）に「澤屋」として創業した酒造会社。大正 12 年（1923）に名水を求めて現在地に酒造場を増設した。新高瀬川越しに見える酒蔵や煉瓦煙突は地域の代表的な景観である。